

EBM 普及推進事業

平成 23 年度 活動報告

公益財団法人日本医療機能評価機構

EBM医療情報部

事業内容

EBM（根拠に基づく医療）は、最新かつ最良のエビデンス（科学的根拠）を実際の医療の場で活用することにより医療の質を可能な限り高いレベルに向上させるための基本的な考え方である。我が国では、厚生労働省を中心に、EBMに基づく診療ガイドラインを普及推進することで、EBMの発展に努めてきた。

その中で、財団法人日本医療機能評価機構が実施してきた EBM データベース事業（以下、Minds）は、我が国における EBM の普及推進に中心的な役割を果たしてきた。Minds で実施してきた 9 年間の EBM 普及推進活動実績を継承しつつ、それを拡大して今年度から新たな委託事業として、より効果的な EBM 普及推進を実現すべく、下記の 6 項目を中心にして事業を実施した。

平成 23 年度実施項目

1. EBM データベースの構築
2. 診療ガイドライン・医学情報等の評価
3. 診療ガイドライン作成支援
4. EBM 普及啓発活動
5. EBM に係る海外動向調査
6. 問い合わせ対応体制

目次

1. EBM データベースの構築

- 1.1. 診療ガイドラインデータベース
- 1.2. 医学文献情報データベース
- 1.3. 国際的な動向を反映したデータベース構築
- 1.4. 一般国民向け情報データベースの構築
- 1.5. 活用しやすく、利便性の高いインターネット情報提供の実現
- 1.6. EBM データベースの利用状況把握の仕組み作りを構築

2. 診療ガイドライン・医学情報等の評価

- 2.1. 診療ガイドラインの科学的評価
- 2.2. 医学文献等の科学的評価

3. 診療ガイドライン作成支援

- 3.1. 診療ガイドライン作成グループ連絡会議の定期開催（2回／年）
- 3.2. 診療ガイドライン作成の方法に関する情報提供
- 3.3. 医学文献情報の提供

4. EBM 普及啓発活動

- 4.1. EBM 研究フォーラム
- 4.2. Minds セミナーの開催
- 4.3. EBM 実践に関する啓発書の作成と公開（平成 24 年度より開始のための準備）
- 4.4. e ラーニングなどのツールの開発と提供（平成 24 年度より開始のための準備）

5. EBM に係る海外動向調査

- 5.1. ガイドライン・インターナショナル・ネットワーク (G-I-N) への参加、協力と連携
- 5.2. 医療技術評価部会と East Asian Cochrane Alliance (EACA)
- 5.3. Workshop on EBM education

6. お問い合わせ対応体制

- 6.1. 対応体制の充実（ガイドライン作成グループとの連携強化）
- 6.2. お問い合わせページの充実、ご相談ページの充実

7. 実施体制

- 7.1. 運営委員会(2回開催)
- 7.2. 診療ガイドライン選定部会(6回開催)
- 7.3. 医療技術評価部会(4回開催)
- 7.4. EBM 普及啓発部会(4回開催)
- 7.5. 作業部会(4回開催)

1. EBM データベースの構築

(2012年3月31日時点での掲載コンテンツ一覧は資料を参照)

1.1. 診療ガイドラインデータベース

【要約】

日本で作成・公開されている EBM の手法に基づく診療ガイドラインを調査対象とし、主要データベース、各学会ホームページ等を中心に網羅的な検索を行い、2段階のスクリーニングにより、診療関連以外のガイドライン、海外で作成されたガイドラインの翻訳版等を除外し、診療ガイドラインの絞込みを行った。

平成 23 年度は平成 23 年および平成 22 年に発行された文献を中心にスクリーニング作業を進めた結果、68 件の文献が診療ガイドラインとして評価対象に挙がり、評価選定作業の結果、44 件の診療ガイドラインが選定された。選定された 44 件の診療ガイドラインのうち 7 件が Minds のホームページ上に掲載され、さらに選定された 44 件のガイドラインすべてについてガイドラインサマリーを公開し、書誌情報や関連情報などの基本情報を掲載した（平成 24 年 3 月末日現在）。

Minds 掲載ガイドラインの英語版が作成されている場合には、作成者の許可の下、「ENGLISH」ページに掲載した。平成 23 年度は 4 件掲載した。

【結果詳細】

1) 検索結果：

各データベースの発行年別検索結果は以下の通りである。

主要データベース		論文データベース		報告書データベース	
発行年	文献数	発行年	文献数	発行年	文献数
平成 23 年	243 件	平成 23 年	78 件	平成 23 年	242 件
平成 22 年	368 件	平成 22 年	112 件	平成 22 年	140 件
平成 21 年	296 件	平成 21 年	97 件	平成 21 年	119 件
平成 20 年	373 件	平成 20 年	130 件	平成 20 年	78 件
平成 19 年	289 件	平成 19 年	100 件	平成 19 年	82 件
合計	1569 件	合計	517 件	合計	661 件

2) スクリーニング結果：

上記の検索結果についての、1次/2次スクリーニング結果（完了分）は以下の通りである。

(1) 平成 23 年発行分主要データベース

- ・ 1 次スクリーニング結果：243 件→123 件
- ・ 2 次スクリーニング結果：123 件→66 件

(2) 平成 22 年発行分主要データベース

- ・ 1 次スクリーニング結果：368 件→134 件

(3) 平成 23 年発行分論文データベース

- ・ 1 次スクリーニング結果：78 件→24 件

※ 2次スクリーニングについては作業中

(4) 平成 23 年発行分報告書データベース

・ 1次スクリーニング結果：242 件→70 件

※ 2次スクリーニングについては作業中

尚、平成 22 年以前の文献のスクリーニングについては現在作業中であり、発行年の新しい文献から順次作業を進めている。

3) ガイドライン評価結果：

平成 23 年度中に計 15 回のガイドライン評価会議を開催し、スクリーニングの結果、AGREE II の評価対象となったガイドライン計 68 件の評価を行った。

4) ガイドライン選定：

AGREE II による評価を行った結果を資料として診療ガイドライン選定部会にて選定審議を行った結果、68 件のガイドラインのうち、44 件が選定された。

選定されたガイドラインについては、以下の「平成 23 (2011) 年度選定ガイドライン一覧」に示す。

平成 23(2011)年度 選定ガイドライン一覧

No	ガイドライン名	発行年月	版	著編者(作成代表者)
1	パーキンソン病治療ガイドライン 2011	2011.4	第 1 版	日本神経学会
2	大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン(改訂第 2 版)	2011.6	第 2 版	日本整形外科学会
3	多発性硬化症治療ガイドライン 2010	2010.11	第 1 版	日本神経学会 日本神経免疫学会 日本神経治療学会
4	日本うつ病学会治療ガイドライン I.双極性障害 2011	2011.3	第 1 版	日本うつ病学会
5	新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症に対するビタミン K 製剤投与の改訂ガイドライン(修正版)」	2011.2	第 3 版	日本小児科学会
6	エビデンスに基づいた月経前不快気分障害 (PMDD)の薬物治療ガイドライン	2011.2	第 1 版	山田和男 神庭重信
7	ANCA 関連血管炎の診療ガイドライン	2011.2	第 1 版	厚生労働科学研究費補助 金難治性疾患克服研究事業 ANCA 関連血管炎のわが国における治療法の確立のための多施設共同前

				向き臨床研究班ほか
8	関節リウマチ治療における メトトレキサート(MTX) 診療ガイドライン 2011 年版	2011.4	第 2 版	日本リウマチ学会
9	小児がん診療ガイドライン 2011 年版	2011.10	第 1 版	日本小児がん学会
10	顎関節症患者のための初期治療診療ガイドライン 2	2011.7	第 1 版	日本顎関節学会
11	産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2011	2011.2	第 1 版	日本産科婦人科学会 日本産婦人科医会
12	産婦人科診療ガイドライン—産科編 2011	2011.3	第 1 版	日本産科婦人科学会 日本産婦人科医会
13	腰椎椎間板ヘルニア診療ガイドライン 改訂第 2 版	2011.7	第 2 版	日本整形外科学会 日本脊椎脊髄病学会
14	前立腺肥大症診療ガイドライン	2011.6	第 1 版	日本泌尿器科学会
15	脊髄損傷における排尿障害の診療ガイドライン	2011.9	第 1 版	日本排尿機能学会 日本脊髄障害医学会
16	摂食・嚥下障害, 構音障害に対する舌接触補助床 (PAP) の診療ガイドライン	2011.3	第 1 版	日本老年歯科医学会 日本補綴歯科医学会
17	がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 2011 年版	2011.7	第 1 版	日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会
18	がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 2011 年版	2011.7	第 1 版	日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン作成委員会
19	科学的根拠に基づく 乳癌診療ガイドライン ①治療編 2011 年版	2011.9	第 1 版	日本乳癌学会
20	科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン ②疫学・診断編 2011 年版	2011.9	第 1 版	日本乳癌学会
21	子宮頸癌治療ガイドライン 2011 年版	2011.11	第 2 版	日本婦人科腫瘍学会
22	頸椎後縦靭帯骨化症診療ガイドライン 2011	2011.11	第 2 版	日本整形外科学会 日本脊椎脊髄病学会
23	腰部脊柱管狭窄症診療ガイドライン 2011	2011.11	第 1 版	日本整形外科学会 日本脊椎脊髄病学会
24	特発性正常圧水頭症診療ガイドライン 第 2 版	2011.7	第 2 版	日本正常圧水頭症学会
25	腎癌診療ガイドライン 2011 年版	2011.11	第 2 版	日本泌尿器科学会
26	腎移植後サイトメガロウイルス感染症の診療ガイドライン 2011	2011.11	第 1 版	日本臨床腎移植学会

27	腎移植後内科・小児科系合併症の診療ガイドライン 2011	2011.8	第 1 版	日本臨床腎移植学会
28	線維筋痛症診療ガイドライン 2011	2011.7	第 1 版	日本線維筋痛症学会
29	バセドウ病治療ガイドライン 2011	2011.5	第 1 版	日本甲状腺学会
30	透析患者の C 型ウイルス肝炎治療ガイドライン	2011.6	第 1 版	日本透析医学会
31	小児白血病・リンパ腫の診療ガイドライン 2011 年版	2011.11	第 1 版	日本小児血液学会
32	原発性胆汁性肝硬変(PBC)の診療ガイドライン (2011 年)	2011.3	第 1 版	厚生労働省難治性疾患克服研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班(班長:坪内博仁)
33	小児・思春期糖尿病管理の手びき(改訂第 3 版)—コンセンサス・ガイドライン—	2011.6	第 3 版	日本糖尿病学会 日本小児内分泌学会
34	JRC 蘇生ガイドライン 2010	2011.1	第 1 版	日本蘇生協議会 日本救急医療財団
35	科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2010	2010.9	第 3 版	日本糖尿病学会
36	クローン病診療ガイドライン	2010.4	第 1 版	日本消化器病学会
37	肝硬変診療ガイドライン	2010.4	第 1 版	日本消化器病学会
38	苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2010 年版	2010.6	第 1 版	日本緩和医療学会
39	がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版	2010.8	第 2 版	日本緩和医療学会
40	卵巣がん治療ガイドライン 2010 年版	2010.11	第 3 版	日本婦人科腫瘍学会
41	甲状腺腫瘍診療ガイドライン 2010 年版	2010.1	第 1 版	日本内分泌外科学会 日本甲状腺外科学会
42	制吐薬適正使用ガイドライン 2010 年 5 月【第 1 版】	2010.6	第 3 版	日本癌治療学会
43	認知症疾患治療ガイドライン 2010	2010.5	第 1 版	日本神経学会
44	てんかん治療ガイドライン 2010	2010.1	第 1 版	日本神経学会

5) ガイドライン掲載：

(1) 医療提供者向け診療ガイドラインの掲載

診療ガイドライン選定部会にて選定された 44 件のガイドラインのうち、7 件のガイドラインを Minds のホームページに掲載した。掲載様式は、PDF 形式が 5 件、学会ホームページへのリンクが 2 件である。掲載されたガイドラインについては以下の「平成 23 (2011) 年度掲載ガイドライン一覧」に示す。

平成 23(2011)年度 掲載ガイドライン一覧

No	ガイドライン名	掲載日	掲載様式
1	パーキンソン病治療ガイドライン 2011	2012.2.18	リンク
2	多発性硬化症治療ガイドライン 2010	2012.2.18	リンク
3	日本うつ病学会治療ガイドライン I.双極性障害 2011	2012.2.18	PDF
4	新生児・乳児ビタミン K 欠乏性出血症に対するビタミン K 製剤投与の改訂ガイドライン(修正版)」	2012.2.21	PDF
5	顎関節症患者のための初期治療診療ガイドライン 2	2012.2.21	PDF
6	ANCA 関連血管炎の診療ガイドライン	2012.2.29	PDF
7	摂食・嚥下障害, 構音障害に対する舌接触補助床(PAP)の診療ガイドライン	2012.2.29	PDF

(2) ガイドラインサマリーの掲載

選定された 44 件のガイドラインすべてについて、ガイドラインサマリーを公開し、書誌情報や Minds のホームページでの関連情報掲載状況等の基本情報を掲載した。

(3) 英語版診療ガイドラインの掲載

Minds に掲載された医療者用診療ガイドラインの英語版が出版されている場合には、作成者の許可の下、「ENGLISH」ページに掲載した。平成 23 年は 4 件の英語版診療ガイドラインを掲載した。

- ・小児急性中耳炎【英語版】：11/29

Acute Otitis Media (AOM) in Children

Clinical Practice Guidelines for the Diagnosis and Management of Acute Otitis Media (AOM) in Children [2009]. Subcommittee on Clinical Practice Guidelines for the Diagnosis and Management of Acute Otitis Media in Children (Japan Otological Society, Japan Society for Pediatric Otorhinolaryngology, Japan Society for Infectious Diseases in Otolaryngology) . Auris Nasus Larynx. 2012 Feb;39(1):1-8.

PMID:22196959

- ・産科【英語版(abstract)】：2/20

Obstetrical practice

Minakami H, Hiramatsu Y, Koresawa M et al. Guidelines for obstetrical practice in Japan

:Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists (JAOG) 2011 edition. J Obstet Gynaecol Res.

2011 Sep;37(9):1174-97.

PMID:21917078

- 膵癌【英語版(abstract)】 : 3/1

Pancreatic Cancer

Yamaguchi K, Tanaka M; Committee for Revision of Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer of Japan Pancreas Society. EBM-based Clinical Guidelines for Pancreatic Cancer 2009 from the Japan Pancreas Society: a synopsis. Jpn J Clin Oncol. 2011 Jul;41(7):836-40.

PMID:21719748

- 子宮体癌【英語版(abstract)】 : 3/1

Uterine Body Neoplasm

Nagase S, Katabuchi H, Hiura M, et al. Evidence-based guidelines for treatment of uterine body neoplasm in Japan Japan Society of Gynecologic Oncology (JSGO) 2009 edition. Int J Clin Oncol. 2010 Dec;15(6):531-42.

PMID:21069552

1.2. 医学文献情報データベース

【要約】

診療ガイドライン発行後に発表される論文の構造化抄録である Minds アブストラクトは、従来の構造化抄録フォーマット、作成方法を見直し、事務局で文献検索・収集、疫学専門家による構造化抄録作成、専門医によるコメント執筆という工程でトライアル版の作成を進めた。診療ガイドライン発行後に注目される話題について診療ガイドライン作成委員長または委員長によって推薦された者が執筆するトピックスは、従来の作成方法を踏襲し、Minds に診療ガイドラインを掲載している作成委員全体に一斉に執筆依頼を実施、依頼先より受領した原稿を公開するよう進めた。

Minds アブストラクトは、トライアル版を 20 件作成し、その上で、構造化抄録の形式、作成方法について検討を行った。トピックスは 20 件（平成 22 年度に依頼した分 1 件を含む）を作成、うち 18 件を公開し、作成方法について検討を行った。

【結果詳細】

1) Minds アブストラクト

Minds アブストラクトについては、EBM 普及啓発部会において、従来からの Minds アブストラクト作成の問題点を整理し、国際的に個々の臨床研究ではなく、システムティックレビューの重要性が高まっているため、システムティックレビュー についての Minds アブストラクトのトライアル版の作成を行うことを決定した。

対象文献は次の通りであった。

- ・ 肺炎 9 件
- ・ 痔瘻 1 件

(構造化抄録作成段階で、メタアナリシスを行っていない1件を除外した)

- ・ 胆道癌 0 件
- ・ 胆管炎・胆嚢炎 1 件
- ・ 肝癌 8 件
- ・ 胃潰瘍 1 件

計 20 件

平成 24 年 3 月 31 日時点で、専門医のレビューコメントを付して作成が完了したものは 19 件、専門医にコメント依頼中のものが 1 件である。

2) トピックス

トピックスについては、EBM 普及啓発部会において作成方法の検討・承認を経て、本年度分の作成を進めた。

本年度は平成 23 年 9 月 13 日に、作成協力のお伺いを行う書類を一斉送付した(65 件)。うち、協力可と返答があったのが 24 件、執筆者の推薦をいただいたのが 10 件、執筆可能時期を指定したのが 6 件、別の送付先を指定されたのが 2 件、返信がなかったのが 23 件であった。また、推薦・別の送付先指定のうち、協力可と返答があったのが 11 件、協力

不可が1件であった。

協力可との返答を受けた35件のうち、執筆原稿を受けたのが19件（子宮体癌は2件）であった。

平成24年3月31日時点で、公開できたのは17件であり、昨年度依頼分も含めると、本年度公開できたトピックスは18件である。

1.3. 国際的な動向を反映したデータベース構築

【要約】

質の高いシステマティックレビューを数多く収載するコクラン・ライブラリーのアブストラクトを日本語翻訳・公開することで、最新の質の高いエビデンスの普及をはかる。また、診療ガイドライン作成グループによる CPG レビューは、海外のガイドライン情報も加味した特定のテーマにおける包括的な内容であり、診療ガイドラインの付加的情報として活用が期待される。平成 23 年度はコクラン・レビュー・アブストラクトの日本語訳については 305 件、CPG レビューについては 4 件のデータを作成した。

【結果詳細】

1) コクラン・レビュー・アブストラクトの日本語翻訳

翻訳対象アブストラクトは一月あたり 16~29 件で、ばらつきは大きかった。翻訳業者は入札のあった 6 社から、あらかじめ作成した評価法に従い 1 社を選択した。平成 23 年度は、歯科以外では 2010issue10~2011issue11 の期間で 275 件、歯科領域では 30 件、計 305 件をデータベースに収載した。平成 24 年 3 月現在、Minds で公開中のコクラン・レビュー・アブストラクトの日本語訳は重複を含めて、1,602 件、重複、Withdrawn を除くと 1,321 件である。2011issue11 時点でのコクラン・レビュー数は 4,837 件なので、全体の約 27% が日本語に翻訳されていることになる。

2) CPG レビュー

平成 23 年度は「子宮体癌」「小児急性中耳炎」「前立腺肥大症」「糖尿病」の 4 件の CPG レビューのデータを作成した。「糖尿病」を除く 3 件については、既に公開作業済みである。平成 24 年 3 月現在、35 疾患について CPG レビューが公開されている。

1.4. 一般国民向け情報データベースの構築

【要約】

学会が作成する一般向けガイドラインについては、小児急性中耳炎ガイドライン作成委員会が作成された『小児急性中耳炎診療ガイドラインについて 一般の方・おうちの方へ』（平成23年6月作成）を掲載した。

ガイドライン解説については、「口腔癌」、「高尿酸血症・痛風」、「未熟児動脈管開存症」、「高血圧」、「脳卒中」の5疾患について新規に下案原稿を作成した。また、既に公開されている「肝癌」、「褥瘡」、「小児急性中耳炎」、「糖尿病」の4疾患のガイドライン解説については、医療提供者向けガイドラインの改訂に伴い、各ガイドライン解説の内容を見直し、改訂内容を反映した下案原稿を作成し、ガイドライン作成委員への校閲・執筆依頼準備を行った。

やさしい解説については、「前立腺癌」、「高血圧」、「骨粗鬆症」、「認知症」、「CKD」の5疾患について下案原稿を作成し、ガイドライン作成委員・監修医への校閲依頼準備および公開に向けた準備を行った。

総論解説については、企画内容を検討し、解説項目・用語を決定し、下案原稿を作成し、専門家への執筆依頼準備および公開に向けた準備を行った。

【結果詳細】

1) 学会が作成する一般向けガイドラインの掲載

小児急性中耳炎ガイドライン作成委員会が作成された『小児急性中耳炎診療ガイドラインについて 一般の方・おうちの方へ』（平成23年6月作成）を掲載した。

2) ガイドライン解説

「口腔癌」、「高尿酸血症・痛風」、「未熟児動脈管開存症」、「高血圧」、「脳卒中」の5疾患について新規に下案原稿を作成した。また、既に公開されている「肝癌」、「褥瘡」、「小児急性中耳炎」、「糖尿病」の4疾患のガイドライン解説については、医療提供者向けガイドラインの改訂に伴い、各ガイドライン解説の内容を見直し、改訂内容を反映した下案原稿を作成し、ガイドライン作成委員への校閲・執筆依頼準備を行った。

3) やさしい解説

「前立腺癌」、「高血圧」、「骨粗鬆症」、「認知症」、「CKD」の5疾患について下案原稿を作成し、解説文とともに、解説に掲載するイラスト・図表の作成を行った。「前立腺癌」についてはホームページ作成を行い、公開に向けた最終調整をガイドライン作成委員とともに、現在も作業が進行中である。また、「虚血性心疾患」、「慢性心不全」、「不整脈」等の循環器疾患については、下案原稿作成を進めつつ、ガイドライン作成委員に協力依頼を行った。その他、「脳卒中」等の脳神経疾患や、「軟部腫瘍」等の整形外科系疾患についても下案原稿作成を行った。

4) 総論解説

(1) EBM・診療ガイドライン関連基礎知識解説

企画内容を検討し、決定した解説項目について下案原稿を作成し、専門家への執筆依頼準備を行った。

(2) EBM・疫学・診療ガイドライン関連用語集

ガイドライン解説用語集から EBM・疫学・診療ガイドライン関連用語を約 150 用語抽出し、各疾患別用語解説から統合版の用語解説を作成した。

1.5. 活用しやすく、利便性の高いインターネット情報提供の実現

【要約】

平成 23 年度は、インターネット上のデータベースシステムである新 Minds サイトを開発し、旧システムからのデータ移行を完了した。新システムの特徴は、以下のようになる。トップページではユーザーを「一般の方」、「医療提供者の方」に大きく 2 分することで、ユーザーが目的とするコンテンツにたどり着きやすくなるようにした。検索においては、疾患カテゴリー、疾患名、コンテンツの種類、コンテンツの形式等からコンテンツを絞り込むことができるようにした。サマリー、評価選定等、新規コンテンツの表示ができるようにした。従来の問い合わせ機能に加えて、各コンテンツページから問い合わせができるようにした。バックエンドシステムにおいては、よりスムーズにコンテンツ登録ができるようにした。

【結果詳細】

全体の構成



医療情報サービス Minds(マインズ)
厚生労働省委託事業: EBM(根拠)に基づく(医療)普及推進事業により公開中

[ログイン](#) | [ご依頼](#) | [お問い合わせ](#) | [よくある質問](#) | [共有する](#) | [サイトマップ](#)

サイト内検索

一般の方

医療提供者の方

掲載情報

会員の方

English



マインズでは、一般の方から医療提供者の方が利用できる
さまざまな医療関連情報をご提供しております。

公益財団法人日本医療機能評価機構

welcome Minds について

一般の方

- ▶ **病気・テーマ別に調べる**
 - ▷ 病気・テーマ別に調べる
 - ▷ 医学用語を調べる
- ▶ **投稿する**



医療提供者の方

- ▶ **病気・テーマ別に調べる**
 - ▷ 病気・テーマ別に調べる
 - ▷ 各種条件を指定して調べる
 - ▷ CQ Finder で調べる
- ▶ **投稿する**



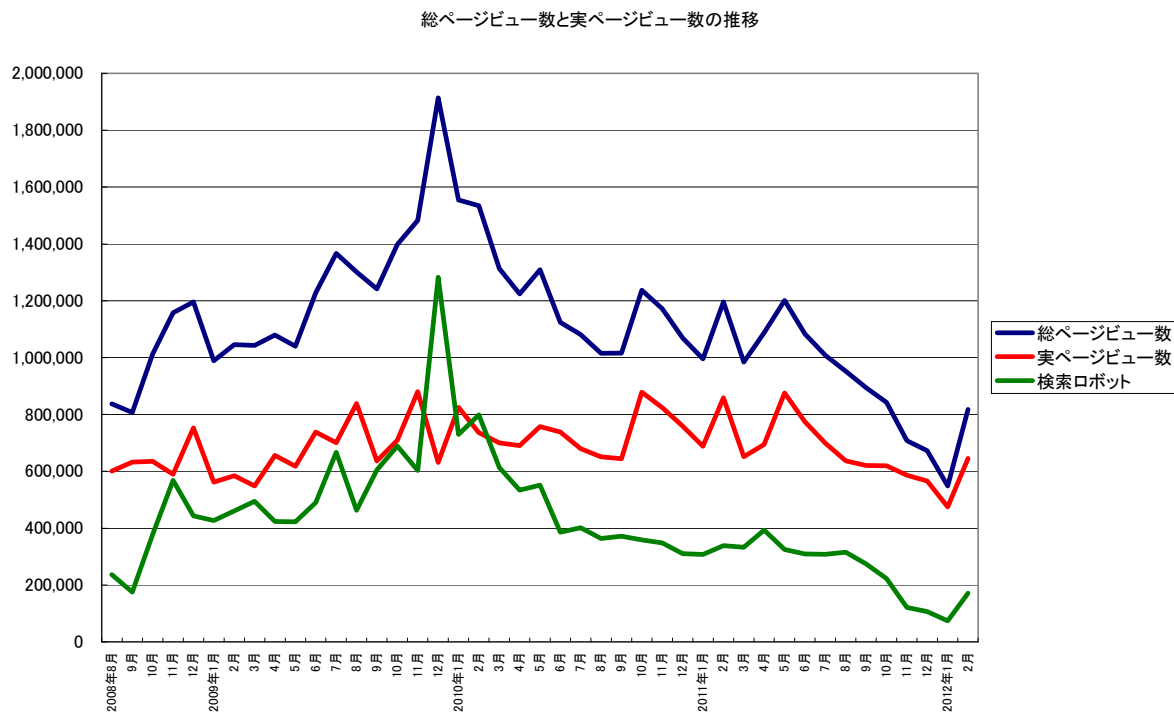
会員募集のご案内 <div style="background-color: #f1c40f; text-align: center; padding: 5px; margin-top: 10px;">ログイン</div> <ul style="list-style-type: none">▶ 会員の特典▶ 申し込む Minds について <ul style="list-style-type: none">▶ 診療ガイドラインとは▶ サイトのご利用条件▶ Mindsについて▶ 著作権について▶ Mindsの使い方▶ その他の関連サービス▶ ガイドライン作成の方へ	お知らせ <div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">すべて すべて</div> <ul style="list-style-type: none">2012.03.30 すべて 病気・テーマ別に調べるをリニューアルしました(2012/3/30)2012.03.27 すべて 2012.01.28 開催『第10回 Minds(マインズ)セミナー』のレポートを公開しました(2012/03/27)2012.03.13 すべて コクラン・レビュー・アブストラクト2011 issue 11から34レビューの日本語訳を追加掲載しました(2012/03/13)2012.02.29 すべて 『アルツハイマー型痴呆』『口腔癌』『う蝕(虫歯)』『卵巣がん』のトピックスを公開しました(2012/02/29)2012.02.29 すべて 『摂食・嘔下障害、構音障害』『ANGA関連血管炎』の医療提供者向け診療ガイドラインを公開しました(2012/02/29)2012.02.21 すべて 『新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症』『頸関節症』の医療提供者向け診療ガイドラインを公開しました(2012/02/21)2012.02.18 すべて 『双極性障害』『パーキンソン病』『多発性硬化症』の医療提供者向け診療ガイドラインを公開しました(2012/02/18)2012.02.10 すべて 【速切間訳】2012.02.25 開催『第10回 EBM研究フォーラム』のお知らせ(2012/02/10)2012.02.07 すべて コクラン・レビュー・アブストラクト2011 issue 10から39レビューの日本語訳を追加掲載しました(2012/02/07)2012.02.07 すべて コクラン・レビュー・アブストラクト2009 issue 1、4、2010 issue 6、9、12、2011 issue 2、12、から71レビューの日本語訳を追加掲載しました(2012/02/07) <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">すべて見る</div>	レポート <ul style="list-style-type: none">2012.01.28 Mindsセミナー 第10回 『Development, Dissemination and Utilization of the Cochrane Reviews: Role of EACA (コクランレビューを、つくる、つなげる、つかう - EACAの役割-)』2012.01.28 the 10th MINDS seminar 『Development, Dissemination and Utilization of the Cochrane Reviews: Role of EACA』2011.07.23 Mindsセミナー 第9回『医療技術評価と診療ガイドライン』2011.02.05 EBM研究フォーラム 第9回 『診療ガイドラインを明日につなげる:現場のニーズに応えるMindsを目指して』2010.02.06 Mindsセミナー 第8回『Mindsの活用の仕方』 <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">すべて見る</div> <div style="background-color: #34495e; color: white; padding: 5px; margin-top: 10px;">EBMスコラ</div> <p style="font-size: 8px; margin-top: 5px;">該当するEBMスコラは存在しませんでした。</p>
--	--	--

1.6. EBM データベースの利用状況把握の仕組み作りを構築

【要約】

Minds システムの運用においては、Minds サイトの利用に関する様々なデータを取得することができる。このデータを活用し、利用状況の分析を行なうことで、公開コンテンツやシステムの改善のための基礎資料を得ることを目的とした。そのために、Minds サーバより出力されるサーバログファイルを月単位で解析した。これより、Minds サイトにおける総ページビュー数および、検索ロボット等のアクセスを除外した実ページビュー数を求めた。また、さらに深い解析を実施するため、サーバログファイルを加工した 1 次加工ログデータの整備を実施した。総ページビュー数と実ページビュー数については結果詳細の通りであった。

【結果詳細】



2. 診療ガイドライン・医学情報等の評価

2.1. 診療ガイドラインの科学的評価

【要約】

平成 23 年度は平成 23 年および平成 22 年に発行された文献を中心にスクリーニング作業を進めた結果、68 件の文献が診療ガイドラインとして評価対象に挙がり、評価選定作業の結果、44 件の診療ガイドラインが選定された。

【結果詳細】

1) 評価対象ガイドライン

平成 23 年度は、スクリーニングの結果、AGREE II の評価対象となったガイドライン計 68 件の評価を行った。

2) 診療ガイドライン評価会議開催状況

平成 23 年度は、合計 15 回の診療ガイドライン評価会議を開催した。

3) 診療ガイドライン選定部会開催状況

平成 23 年度は、合計 6 回の診療ガイドライン選定部会を開催した。

4) ガイドライン選定

AGREE II による評価を行った結果を資料とし、診療ガイドライン選定部会にて選定審議を行った結果、68 件のうち、44 件の診療ガイドラインが選定された。

5) 利益相反 (COI) への対応

診療ガイドライン評価ワーキンググループメンバーには、事前に①所属学会および関係学会、②作成に関与したガイドライン名（作成主体、作成年、出版社）について申告いただき、さらに各評価会議の事前に評価担当となったガイドラインへの COI の有無についても確認を行った。評価メンバーがガイドライン作成に関与していた場合には、あらかじめガイドライン評価は担当せず、また評価会議においても、該当するガイドラインの討議中は席を外していただき、評価作業に参加しないようにした。

6) AGREE II 日本語版作成

平成 23 年度は、Step. 2 の日本語訳（第一稿）作成まで工程を進め、Step. 3 のバックトランスレーションへ向けての準備を行った。

平成 24 年度は、Step. 2 の日本語訳（第一稿）の最終調整を行った後、Step. 3 から 5 の工程へと進み、日本語訳（最終稿）を完成させる予定である。

2.2. 医学文献等の科学的評価

【要約】

Minds アブストラクトは、独自の採用基準を設定し、これを満たす論文を構造化抄録作成対象に限定している。最終的には疾患専門医に監訳をしてもらい、コメントもいただいている。トピックスは、診療ガイドライン作成グループに執筆を依頼している。平成 23 年度は、Minds アブストラクト 8 件、トピックス 18 件を公開した。これらコンテンツの作成は EBM 普及啓発部会により監督されている。

コクラン・レビュー・アブストラクトの日本語訳は、質の高いシステマティックレビューを収載したコクラン・ライブラリーから日本語翻訳対象のアブストラクトを選択している。翻訳業者の素訳後、専門家に監訳していただいている。CPG レビューは、診療ガイドライン作成グループに執筆を依頼している。平成 23 年度は、コクラン・レビュー・アブストラクトの日本語訳 305 件、CPG レビュー 3 件を公開した。これらコンテンツの作成は医療技術評価部会により監督されている。

(Minds アブストラクト、トピックスについては 1.3、コクラン・レビュー・アブストラクトの日本語訳、CPG レビューについては 1.4 を参照。)

3. 診療ガイドライン作成支援

【要約】

- EBM データベースに掲載されている診療ガイドラインの作成者を対象とした診療ガイドライン作成グループ意見交換会を2回開催した。
- 診療ガイドライン作成支援ツールである『オンライン編集システム』の不具合やエラー表示の修繕を実施し、より使いやすいツールとなった。

【結果詳細】

3.1. 診療ガイドライン作成グループ連絡会議の定期開催（2回/年）

■平成23年度第1回『新生 Minds の目指す EBM 普及推進事業』

日時：平成23年7月9日（土）14：00～17：00

場所：大手町サンスカイルーム 24階『E室』

出席者：55名（ガイドライン作成グループ 36名、講演者1名、挨拶2名、オブザーバー4名、事務局12名）

時間	内容	演者
14:00 - 14:10 (10分)	開会の挨拶	河北 博文 (日本医療機能評価機構 副理事長兼専務理事)
	厚生労働省挨拶	福原 康之 (医療技術情報推進室 室長)
14:10 - 15:10 (60分)	Minds 事業報告 5年計画	吉田 雅博 (EBM 医療情報部長)
	CQ サマリー	清原 康介 (Minds 客員研究員)
15:10 - 15:40 (30分)	Minds オンライン編集システム	佐藤 康仁 (Minds 客員研究員)
	意見交換	
15:40 -16:10 (30分)	診療ガイドライン評価:AGREE II	長谷川 友紀 (東邦大学)
16:10 -17:00 (50分)	質疑応答/意見交換	
	閉会の挨拶	山口 直人 (Minds 担当理事)

■平成23年度第2回『診療ガイドラインと医療訴訟』

日時：平成23年12月3日（土）14：00～17：00

場所：大手町サンスカイルーム 24階『E室』

出席者：52名（ガイドライン作成グループ 32名、講演者2名、挨拶1名、オブザーバー

8名、事務局9名)

時 間	内 容	演 者
14:00 - 14:10 (10分)	開会の挨拶	山口 直人 (Minds 担当理事、東京女子医科大学 教授)
	厚生労働省挨拶	野口 貴史 (医療技術情報推進室 室長補佐)
14:10 - 14:30 (20分)	Minds 事業報告	吉田 雅博 (EBM 医療情報部長)
14:30 - 15:20 (50分)	診療ガイドライン評価・選定	中山 健夫 (京都大学 教授、Minds 診療 GL 選定部会員、 Minds 診療 GLWG 長)
15:20 - 15:40 (20分)	意見交換	
15:40 - 15:50	休憩	
15:50 -16:40 (50分)	【講演】 診療ガイドラインと医療訴訟	稲葉 一人 (中京大学法科大学院 教授)
16:40 -17:00 (20分)	質疑応答／意見交換	
	閉会の挨拶	山口 直人

3.2. 診療ガイドライン作成の方法に関する情報提供

- 1) 「Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2007」の改訂作業について検討し、オンライン編集システムの操作と連動した手引きの作成を開始することとなった。具体的な改定作業は平成 24 年度に行う。
- 2) 診療ガイドライン作成グループや学会のガイドライン委員会等から約 10 数件の問い合わせや依頼があり、作成支援、情報提供を実施した。

3.3. 医学文献情報の提供

Minds アブストラクト 8 件、トピックス 18 件、コクラン・レビュー・アブストラクト日本語訳 305 件を公開した。診療ガイドライン作成グループ意見交換会にてコンテンツを紹介し、作成グループへ周知させた。

4.. EBM 普及啓発活動

【要約】

EBM 実践に関連する教育的な情報提供の充実を目的として、平成 24 年 2 月 25 日（土）に第 10 回 EBM 研究フォーラム「診療現場で診療ガイドラインをいかに活用するか：かかりつけ医、地域医療の視点から」を日本医師会大講堂で（参加者 180 名）、また、平成 23 年 7 月 23 日（土）に第 9 回 Minds セミナー「医療技術評価と診療ガイドライン」を日本医療機能評価機構大会議室で（参加者 66 名）、平成 24 年 1 月 28 日（土）に第 10 回 Minds セミナー「Development, Dissemination and Utilization of the Cochrane Reviews: Role of EACA(コクランレビューを、つくる、つたえる、つかう：EACA の役割)」を日本医療機能評価機構大会議室で（参加者 60 名）開催した。

【結果詳細】

4.1. EBM 研究フォーラム

日時：平成 24 年 2 月 25 日（土） 13 時～17 時

場所：日本医師会館

参加費：無料

参加者：180 名

開会挨拶	日本医療機能評価機構 理事長 井原 哲夫
挨拶	厚生労働省 医療技術情報推進室 室長 福原 康之
挨拶	日本医師会 会長 原中 勝征 代理 日本医師会 副会長 横倉 義武
報告「Minds の現況」	日本医療機能評価機構 EBM医療情報部長 吉田 雅博
(休憩)	
シンポジウム	
「診療現場で診療ガイドラインをいかに活用するか：かかりつけ医、地域医療の視点から」	
	司会： 日本病院会 理事 有我 由紀夫 国際医療福祉大学 教授 森實 敏夫
① 地域連携の観点から	日本医師会 常任理事 今村 聡
② 診療所医師調査の結果から	日本医師会総合政策研究機構 主席研究員 江口 成美
(休憩)	
③ 勤務医の観点から	倉敷中央病院総合診療科 主任部長 福岡 敏雄
④ システムの観点から	東京大学大学院医学系研究科 教授 小山 博史
ディスカッション	
閉会挨拶	日本医療機能評価機構 特命理事 山口 直人

発表のスライド、アンケートの結果については、**レポート**を参照。

http://minds4.jcqh.or.jp/forum/120225/report/10th_ebmforum_report.html

4.2. Minds セミナーの開催

1) 第9回 Minds セミナー

平成23年7月23日(土)に第9回 Minds セミナー「医療技術評価と診療ガイドライン」を開催した。欧州、アジアでの医療技術評価の動向、診療ガイドラインの法的位置づけなどについて講演していただいた。参加者は66名。パネルディスカッションも行い、活発な議論がなされた。

出席者66名に配布したアンケートは、55名から回答が得られた。出席者の内訳では医療関係者が約2/3を占めた。満足度の項目では回答者の7割が満足していることがわかった。平成23年8月18日(木)より、このアンケート結果も含んだ『第9回 Minds セミナー』開催報告を Minds 上にて公開している。

当日のプログラムと資料、アンケートはレポート(<http://minds.jcqhc.or.jp/n/12/T0007993>)を参照。

2) 第10回 Minds セミナー

平成24年1月28日(土)に第10回 Minds セミナー「Development, Dissemination and Utilization of the Cochrane Reviews: Role of EACA (コクランレビューを、つくる、つたえる、つかう - EACA の役割-)」を開催した。申込み者数84名、出席者数60名であった。インドネシアや中国の方の参加もあった。Part1: コクラン共同計画と EACA、Part2: 東アジア各国の現状、の2部構成で進められ、日本以外に、台湾、シンガポール、香港、韓国から講師を招き、講演していただいた。発表、質問とも英語で行われたが、活発に意見交換がなされた。

出席者60名に配布したアンケートは、42名から回答が得られた。出席者の過半数が医療関係者であった。満足度では半数の方に満足していただけたが、予定時間超過に対する厳しいコメントもいただいた。平成24年3月27日より、このアンケート結果も含んだ『第10回 Minds セミナー』開催報告を Minds 上にて公開している。

当日のプログラムと資料、アンケートはレポート(<http://minds.jcqhc.or.jp/n/12/T0009171>)を参照。

4.3. EBM 実践に関する啓発書の作成と公開（平成 24 年度より開始のための準備）

【要約】

平成 24 年度から本格的な作成を開始する EBM 実践に関する啓発書について、EBM 普及啓発部会で検討を行った。EBM 実践に必要な要素について、EBM 実践を行うその対象ごとに整理した。本年度の検討を基に、次年度以降、啓発書の作成を行う。

【結果詳細】

啓発書を用いた EBM 実践を行う医療提供者向け「EBM 学習コース」について、国際標準となる医師に必要な能力との関係を踏まえ、検討を継続することとした。

4.4. eラーニングなどのツールの開発と提供（平成24年度より開始のための準備）

【要約】

平成24年度より企画の具体化を進める予定になっているeラーニングについて、EBM普及啓発部会で検討を行った。様々なツール・システムが必要になること、一般の人から医療提供者を対象にしたコンテンツとすること、総論や啓発書と連携すること、などを確認した。

【結果詳細】

EBM普及啓発部会での議論を踏まえ、平成24年度以降に実現を目指すことを確認した。

5. EBMに係る海外動向調査

5.1. ガイドライン・インターナショナル・ネットワーク (G-I-N) への参加、協力と連携

【要約】

平成23年8月28日～31日に、韓国、ソウルにて開催された「第8回 G-I-N Conference」へ参加し、EBM および診療ガイドラインに関する情報収集と情報発信を行った。

【結果詳細】

1) 会議開催概要とスケジュール

- ・主 題 : Linking Evidence, Policy, and Practice
- ・会 長 : Hyeongsik Ahn 教授, Department of Preventive Medicine, Korea University
- ・会 場 : Korea University, Incheon Memorial Hall(韓国、ソウル)
- ・日 時 : 平成23年8月28日～8月31日(4 日間)
- ・主 催 : Guidelines International Network(G-I-N)
- ・共 催 : Asian-Pacific Evidence-Based Medicine Network (APEBMN)
- ・参加者 : 事前参加登録者294 名(31 カ国)、うち日本から15 名(Minds 関係者9 名)
- ・演題数 : 214 演題、うち日本から11 演題、Mindsからは5演題の発表を行う→3)参照

2011/8/28													
	～9:00	9:00-10:30	11:00-12:30	12:30-14:00	14:00-15:00	15:45-17:00	17:00-18:30	18:30～21:00					
吉田	ANA(NH1163)						Annual General Meeting 【Main Auditorium】	Welcome Reception 【Korea University Alumni Hall】					
菊田	羽田発 11:30 →金浦着 13:55												
奥村													
2011/8/29													
	7:30-8:30	9:00-10:30	11:00-12:30	12:30-14:00	14:00-15:00	15:45-17:00	17:00～						
吉田	North American Community Open Meeting 【Room.6】	Opening Ceremony Plenary 1 "Linking evidence to practice: Guidelines and alternatives" 【Main Auditorium】	OS1 Guideline development-Resource constrained settings 【Main Auditorium】		Plenary 2 "Guidance in the absence of evidence- what can ?- and cannot?-be done?" 【Main Auditorium】	WS3 The Grade approach to assessing the quality of a body of evidence and the strength of recommendations 【Room 2】							
菊田			OS2 Guidelines development-Appraising and updating 【Conference Room】			OS7 Guideline development-Skills and resources 1 【Room 6】							
奥村													
2011/8/30													
	8:00～9:00	9:00-10:30	11:00-12:30	12:30-14:00	14:00-15:00	15:45-17:00	17:00-18:00	19:00-22:00					
吉田	ポスター貼付 ポスター掲示 8:00-17:00	Plenary 3 "Adapting guidelines for resource-constrained settings" 【Main Auditorium】	OS9 Grading and cost considerations 【Conference Room】	Presentation	Plenary 4 "Sustainable guidelines: maintaining relevance to health policy" 【Main Auditorium】	Free Discussion 15:30-15:45	Implementation Opening Meeting 【Room 2】	Gala Dinner					
菊田			WS6 Cochrane collaboration with guideline developers: A win-win situation 【Room 4】			OS14 Guideline development-Safety and adaptation 【Conference Room】							
奥村			OS10 Performance measures 【Main Auditorium】										
2011/8/31													
	8:00-9:00	9:00-10:30	11:00-12:30	12:30-14:00	14:00-15:00	15:45-17:00	17:00～						
吉田	EACA Meeting 【VIP Hall】	Morning Session Guidelines and Evidence Based Decision Making - Experience in Asian Nations 【VIP Hall】	Plenary 5 "Promoting quality of evidence and guidelines in the international community" 【Main Auditorium】	NHS Evidence Satellite Meeting 【Room1】	APEBMN plenary session 1 "Bringing Guidelines and Evidence Based Medicine into Practice in Asian-Pacific context" 【Main Auditorium】	APEBMN plenary session 2 "Evidence-based ODA in Asia-Pacific Region" 【Main Auditorium】	ANA(NH1166) 金浦発20:10→羽田着22:15						
菊田													
奥村													

2) 国際動向の概要

- ・ 米国Institute of Medicine(IOM)からは診療ガイドラインの新定義が発表され、その内容は、平成2年(1990年)に発表されたものよりも具体性が増し、特にシステマティックレビューにより裏付けられた推奨文を含むこと、患者のケアを最も効果的に行えるようリスクとベネフィットについて検討されていること等が新たに盛り込まれた。
- ・ 新定義に続けて、「信頼できるガイドラインはどうあるべきか」についても発表され、ガイドラインに関連する多様な専門家・各グループ代表者とともに作成すること、患者の好みや価値観を尊重すること、利益相反の管理を含めた作成過程の透明性を保持すること、治療・ケアの内容とアウトカム、エビデンスの質と推奨の強さの関連についての十分な説明がなされていること等が要点として挙げられた。
- ・ 米国のIOM、英国のNICE、SIGN を中心に、ガイドライン作成方法、エビデンスの選択基準、推奨の決定方法等について国際的に通用する基準を作成しようという動きが活発にみられた。
- ・ 韓国からは、“Korean Medical Guideline Information Center(KoMGI)”というウェブサイトが紹介され、ガイドライン作成および普及状況が報告された他、Webをベースにしたガイドライン評価システムが紹介される等、積極的な取り組みが伺えた。
- ・ Asian-Pacific Evidence-Based Medicine Network (APEBMN)のセッションでは、台湾におけるエビデンスに基づいた意思決定方法、シンガポールの診療ガイドライン作成・普及状況、オーストラリアからはコクラン・レビューの活用や質の向上に向けた取り組みが発表され、アジア各国の熱心な活動が見受けられた。

3) Minds からの情報発信

Minds からの 5 演題は以下の通りである。

- ・ 山口 理事 : Guideline implementation and dissemination in Japan– role of MINDS (APEBMNにおける総会での口演発表)
- ・ 吉田 部長 : Findings of the practice guidelines making situation for 108 subcommittees joining the Japan Medical Association (ポスター発表)
- ・ 小島原 客員研究員 : The Present Situation and Problems of the Evidence-based Clinical Practice Guidelines in Japan (ポスター発表)
- ・ 佐藤 客員研究員 : Future issues of “Minds” (Medical Information Network Distribution Service), an Internet database for clinical practice guidelines in Japan (ポスター発表)
- ・ 清原 客員研究員 : A Systematic Method for Summarizing Clinical Practice Guidelines (ポスター発表)

*尚、ポスター発表会場では、4 演題とも発表ポスター下に Minds のポスターおよびリーフレットを設置した。

※参加報告書については、レポート参照。

URL : <http://minds.jcqh.or.jp/n/12/T0010517>

5.2. 医療技術評価部会と East Asian Cochrane Alliance (EACA)

【要約】

平成 24 年 1 月 26 日には、日本にて医療技術評価部会と合同で第 5 回 East Asian Cochrane Alliance (EACA)会議を開催し、コクラン・レビューの翻訳状況の報告および翻訳上の課題について意見交換を行った。

【結果詳細】

平成 24 年 1 月 26 日(木)に平成 23 年度第 4 回 医療技術評価部会と合同で EACA 会議を開催した。前半の医療技術評価部会では東京大学の津谷教授を座長として議論が行われた。具体的には、日本の翻訳状況を発表するとともに、各国/地域でのコクラン・レビューの翻訳状況、翻訳の際の問題点などについて意見交換がなされた。コクラン・ライブラリーを提供する Wiley 社からの参加者もあり、コクランの日本語訳をコクラン・ライブラリーに掲載するプロジェクトも始動することとなった。

後半の第 5 回 EACA 会議では'Translation of Cochrane glossary'についてなどさらに具体的なコクラン翻訳の議論がなされた。また、今後の活動について確認がなされた。

(参考)

EACA ホームページ <http://eaca.cochrane.org/welcome>

5.3. Workshop on EBM education

【要約】

平成 24 年 1 月 27 日に、EACA のメンバーに日本の EBM 教育の現状について知ってもらうとともに、他の国/地域との違いなどについて意見交換することを目的に、ワークショップ「Workshop on EBM education」を開催した。

【結果詳細】

以下の要領で、平成 23 年 1 月 27 日(金)に Workshop を開催した。

Workshop プログラム

Date : 14:00-16:00 27 January 2012 (Friday)

Venue : Meeting room, Japan Council for Quality Health Care (JCQHC), 9F

Chairperson : Kiichiro TSUTANI, MD, PhD

Professor, Department of Drug Policy and Management
Graduate School of Pharmaceutical Sciences
The University of Tokyo

1) Risahmawati, MD

Department of General Medicine, Saga University Graduate School of Medicine, Saga University, Japan; Faculty of Medicine and Health Sciences - Syarif Hidayatullah Islamic State University, Indonesia

“Japanese Resident Physicians’ Attitudes, knowledge, and Perceived Barriers on the Practice of Evidence Based Medicine”

2) Eishu NANGO, MD, PhD

Department of General Medicine, Tokyo-kita Social Insurance Hospital

“A Multi-Disciplinary Grass Roots Activity in EBM Education in Japan”

3) Ken N KUO, MD FACS

Director, Center for Health Policy Research and Development, National Health Research Institutes

“Developing EBHC Teaching Curriculum for Medical Education”

4) Toshio MORIZANE, MD, PhD (to be read by Yosuke HATAKEYAMA, Minds)

Department of Medicine, International University of Health and Welfare, Shioya Hospital

“Minds Activities on Promotion of EBM”

Discussion

Adjournment

EBM 教育についての Workshop を EACA メンバーに対して開催した。日本の状況をアジアの各国/地域からの出席者に解説するとともに、日本の状況だけでなく、アジアのほかの国/地域の状況についても意見交換が活発になされた。

6. お問い合わせ対応体制

6.1. 対応体制の充実（ガイドライン作成グループとの連携強化）

（開催概要については、3.1を参照。）

6.2. お問い合わせページの充実、ご相談ページの充実

バックエンドシステムが従来の端末へのアプリケーションのインストールを行うタイプとは異なり、端末を選ばずアクセスが可能となった。また、これまで分離されていた、「お問い合わせ」と「依頼」を統合した。

平成24年1月25日から新システムに移行し、これまでユーザーサイドではできなかった退会手続きを「会員情報変更」からユーザー自身で可能とした。また、ID・パスワードについても「リマインダー」によりユーザー自身で確認可能とした。

平成23年度の間合わせの概要は、ユーザー登録について333件、リンク希望15件、診療ガイドライン掲載依頼2件、引用・転載依頼26件、その他の依頼2件、その他質問39件、ご意見・ご感想12件であった。年度の途中でシステムを変更したため、情報の連続性は失われている。

7. 実施体制

7.1. 運営委員会(2回開催)

本事業の円滑な実施を図るため、EBM 専門家、医療提供者、患者代表などによって構成された「EBM(根拠に基づく医療)普及推進事業 運営委員会」を設置し、事業の運営方針等について2回の会議を行った。

7.2. 診療ガイドライン選定部会(6回開催)

本事業では、診療ガイドライン等の各種医療情報の収集、評価、提供を行うために、日本における EBM 普及に関するリーダー的な多数の外部有識者による審議を行う体制を構築、強化し、6回の会議を行った。

7.2.1. 診療ガイドライン評価ワーキング会議(15回開催)

収集された診療ガイドラインを評価するために、8人の外部有識者(全員がガイドライン作成に関連した医師)と事務局で、診療ガイドライン評価ワーキング会議を開催した。評価方法の検討会を含め、本年度中に計15回のガイドライン評価会議を開催し、スクリーニングの結果、AGREE II の評価対象となったガイドライン計68件の評価を行った。

7.3. 医療技術評価部会(4回開催)

EBM に関連する国際的な動向の把握と情報提供に関しては、外部有識者を中心に構成された、専門部会である医療技術評価部会において審議された。本年度4回開催された。

7.4. EBM 普及啓発部会(4回開催)

EBM 実践に関する啓発書や教育ツールの開発に関しては、外部有識者を中心に構成された、専門部会である EBM 普及啓発部会において審議された。本年度は4回開催された。

7.5. 作業部会(4回開催)

前述のように、診療ガイドライン選定部会、EBM 普及啓発部会、医療技術評価部会の3部会は外部有識者による専門部会である。これらを円滑に運営し、事業の詳細な進捗管理や Minds 全体の実務を調整・管理する体制として、作業部会を設置した。本年度は4回開催された。

No.	疾患名(五十音順)	医療提供者向け					一般向け			
		ガイドライン	ダイジェスト・付録・普及	Minds アブストラクト	コクラン・レビュー	トピックス	CPGLレビュー	ガイドライン	やさしい解説	ガイドライン解説
53	胆道癌	○		-	○(2)				○	
54	頭頸部癌			○(33)		○(1)				
55	糖尿病	○		○(231)*3*7	○(82)	○(3)	○		○	○
56	特発性正常圧水頭症	○		○(7)	○(1)	○(1)	○			
57	軟部腫瘍	○		-	○(5)		○			
58	乳癌	○(5)*5		○(18)	○(38)				○	
59	尿失禁	○		○(84)*7	○(31)	○(2)	○	○		
60	尿路結石症	○		○(17)	○(2)	○(2)	○			
61	妊娠出産ケア	○		-	○(188)	○(1)			○	○
62	脳梗塞	○*2		○(14)*7	○(160)		○*1	○		
63	脳出血	○*2		○(14)*7	○(96)	○(1)	○(2)*11			
64	脳卒中	○			○(11)					
65	肺癌	○		○(61)	○(24)				○	
66	肺がん検診	○		○(5)	○(1)	○(1)	○		○	○
67	白内障	○		○(70)*3	○(10)	○(1)	○	○	○	
68	鼻アレルギー	○*4	○(2)*4	○(90)	○(7)	○(5)	○	○*4		
69	歯の欠損の補綴	○		-	-	○(1)				
70	パーキンソン病	○								
71	皮膚悪性腫瘍	○		○(6)	○(6)	○(1)			○	○
72	不整脈	○		-	○(3)					
73	変形性股関節症	○		-	○(2)	○(1)				○
74	膀胱癌	○			○(2)					
75	慢性心不全	○		-	○(14)					
76	慢性頭痛	○		-	○(14)	○(2)	○	○	○	
77	未熟児動脈管開存症	○		○(30)	○(1)					
78	有床義歯補綴	○				○(2)				○
79	腰椎椎間板ヘルニア	○		○(17)*7	○(4)	○(1)*7				
80	腰痛	○		○(43)*7	○(31)	○(1)*7	○			
81	卵巣がん	○		-	○(26)	○(1)	○			
	掲載疾患数合計	78	4	35	62	46	37	15	24	22
	件数合計※	83	5	1,618	1,612	73	40	-	-	-

■ : 改訂版が出版されているが、未掲載のもの

○ : 掲載済みコンテンツ(数字は件数)

- : 作成未対象

*1 : 「CPGLレビュー:脳卒中」を掲載しているもの

*2 : 改訂版が『脳卒中治療ガイドライン2009』として出版されているもの *3 : 暫定版を含む

*4 : 改訂版(2009年版)があるもの *5 : 改訂版(2007年版)1冊、改訂版(2008年版)4冊があるもの

※件数合計の数は、ガイドライン冊通の合計(乳癌は5冊ある為、鼻アレルギーは付録とダイジェストがある為)。

*6 : 普及版があるもの

*7 : 重複があるもの